

3 アートプロジェクト等の教育研究事業の実施

(1) 教育研究事業の展開の概要

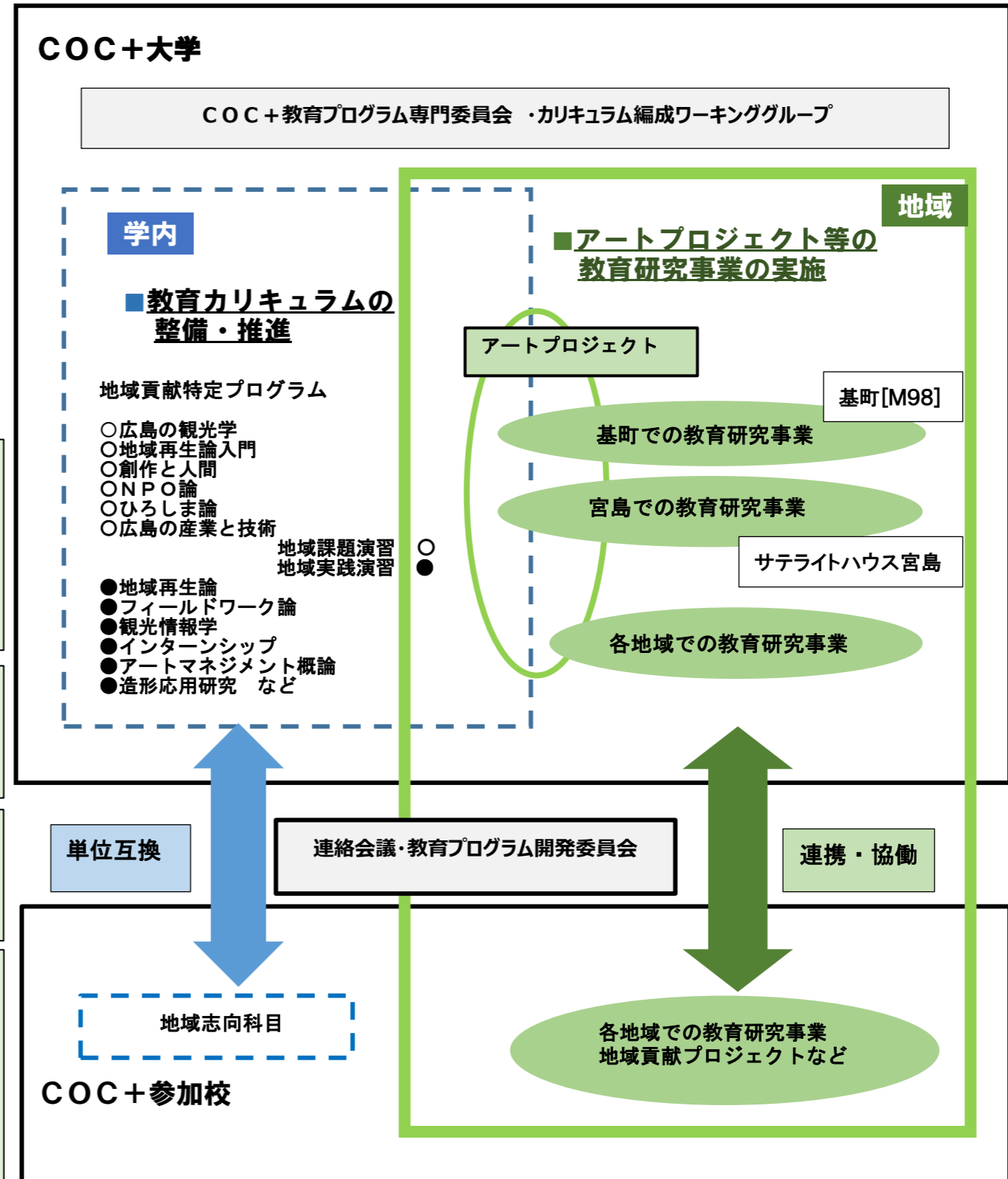
本COC+事業の主たる目的である、地域に貢献する人材の育成にあたり、その柱として、本学の教育カリキュラムの充実と並んで参加校との協働による教育研究事業がある。この両者は学内と地域において重複する部分もあり、その相関を右の概念図に示す。

教育研究事業は「観光振興」をテーマとしながら、これを地域の実情に即して幅広く捉えるなかで(Ⅰ-8「観光」のとらえ方)、本学は芸術学部によるアートプロジェクトを主軸とし、参加校はそれぞれの特長や教育方針を活かして、共同または単独で、各地域における活動を展開した。事業の類型は、調査研究、講座セミナー、作品制作など多彩な内容となっている。

■教育研究事業の類型と内容

(類型) 調査研究 演習	令和元年度 ■コンテンツツーリズムを活用した地域活性化～呉市を中心に～ (呉市) [広島大学] ■学生による観光資源等の再発見と発信 (廿日市市・呉市ほか) [広島経済大学] ■COC+特色研究の実施(各地域) [広島市立大学]
講座 セミナー	■宮島・土曜講座(廿日市市) [広島工業大学] ■COC+サテライト講座(柳井市) [広島市立大学]
作品制作・展示 地域デザイン	■アートプロジェクト(広島市・廿日市市・柳井市・北広島町・安芸太田町) [広島市立大学] ■アートプロジェクト(尾道市) [尾道市立大学]
地域支援・ 活性化活動 その他	■もとまちカフェ(広島市) 地域と連携した教育(廿日市市、北広島町) [広島修道大学] ■基町プロジェクト・グローバルキッチンプロジェクト(広島市、北広島町) [安田女子大学] ■基町プロジェクト全般(広島市) [広島市立大学] ■中山間地域と島しょ部の交流による地域活性化(安芸太田町・呉市・東広島市) [広島国際大学] ■高齢者健康調査(大崎上島町) [広島商船高等専門学校] ■社会連携プロジェクト(各地域) [広島市立大学] ■市大生チャレンジ事業(広島市) [広島市立大学]

本COC+事業における教育カリキュラムと教育研究事業の相関図



(2) 活動拠点—1 (基町「M98」)

地域での教育研究事業を効果的に進めるため、学生や教員の活動の拠点となるスペースを2か所(広島市中区と廿日市市宮島)確保し、それぞれ必要な整備を行い活用している。

広島市中区の基町プロジェクト「M98」は、都市部における様々な課題についての学習拠点であり、非常勤スタッフが駐在し、参加校とともに、若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、街の魅力づくりや地区の活性化を目指す活動を行っている。

基町プロジェクト活動拠点「M98」	
所在地	広島市中区基町 基町市営住宅内
設置時期	平成26年5月(令和元年度までに5スペースを整備)
施設概要	基町住宅地区の商店街の空き店舗をリノベーション。 COC+事業以前に開設していた「M98」(交流オフィス)に加えて、平成28年度に「M98<make>」(工房)、「M98<eat>」(キッチン)を、平成29年度に「M98<join>」(展示)、令和元年度に「Unité」(アートギャラリー)を学生の参加により整備した。
活用内容	基町プロジェクトのスタッフ運営スペース。地域住民との会合。工房やキッチン、展示スペース、ギャラリーを活用した、地域の活性化や交流活動。COC+参加校との協働事業の展開。

■平成30年度までに整備した4つのスペース



「M98」(活動拠点・交流オフィス)



「M98 <make>」(工房)



「M98 <join>」(展示)



「M98 <eat>」(交流キッチン)

■令和元年度「Unité」(ユニテ)の整

「M98」の5番目のスペースとして、空き店舗を学生がリニューアル。ギャラリーとし、創造活動をする若い人に展示や販売の実験の機会を提供するための空間。若いクリエイターの活動を支援し、その成果を地域に還元する「創造の場」の実現を目指す。



(3) 活動拠点—2 (サテライトハウス宮島)

サテライトハウス宮島(正式名称:広島市立大学COC+宮島教育研究施設)を、平成28年10月から、古民家(町家)を借り上げて開設し、建物の一部を改修した上で、平成29年6月に開設記念展を開催した。

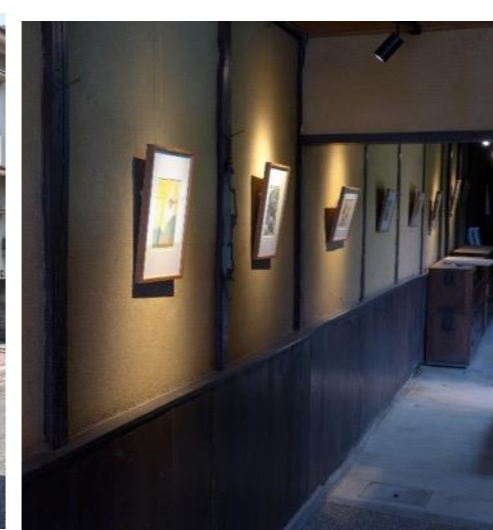
廿日市市宮島は世界遺産であり、観光、歴史文化、自然など様々な学習が豊富に存在している。平成18年には広島工業大学が地域環境宮島学習センター「宮島こもん」を、平成23年には広島経済大学が宮島セミナーハウス「成風館」をそれぞれ開設しており、COC+の参加校が各施設を相互に活用して教育研究を実施した。



広島市立大学COC+宮島教育研究施設 (通称:サテライトハウス宮島)	
所在地	廿日市市宮島町672番地 (旧因幡邸)
開設期間	平成28年10月1日から令和2年3月31日まで
施設概要	宮島における貴重な町家のひとつ。木造切妻造り(一部2階建て)の京都型町家建築で、通り土間や坪庭を有す。空き家であった建物を借り上げ、家財整理や床板等の一部補修を行った。
活用内容	宮島をテーマにした作品制作や展示、講座・セミナーの開催、フィールドワークの拠点としての活用を想定。 (利用者: 本学及びCOC+参加校の教職員・学生) ■主な利用状況 芸術展示、芸術学部の制作、現地学習の拠点、市民向け講座(広島工業大学土曜講座)、観光に関する学生の研究・活動発表会現地視察、市民団体の宮島に関するイベント会場



芸術学部の作品の制作・展示、講座の開催、地域学習などに活用



旧因幡邸 建築時期は19世紀末(江戸・幕末期) 間口約5.6m、奥行約21m+α 資料提供:広島工業大学

(4) アートプロジェクトの実施

■令和元年度の実施状況

令和元年度も前年度に引き続き、統一テーマを「広島ニュートラベル」とし、瀬戸内、広島市都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。

実施地域として、新たに呉市、東広島市を加えた6地域7つのプロジェクトを実施し、令和元年度の総来場者数は6130人となった(前年度は4463人)。

また、COC+の最終年度を締めくくるアートプロジェクトとして、基町地区の空き店舗を新たにアートギャラリーとしてリニューアルし、そのスペースにおいてCOC+アートプロジェクトの関連作品を展示した(「feel セトウチ in モトマチ」展)。

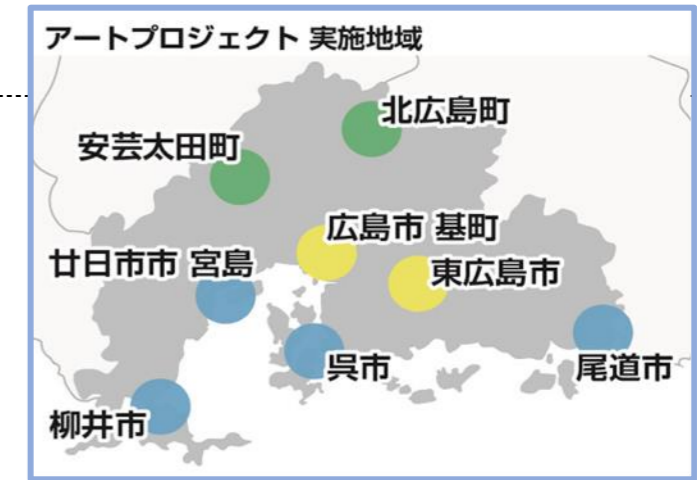


令和元年度 COC+アートプロジェクト			
地域	プロジェクト	内容 (赤字はR元年度新規)	参加者
廿日市市 宮島	①宮島ものづくり産業復興プロジェクト	R元年度も引き続き廿日市市、宮島細工共同組合と協働し、伝統産業会館を活用した宮島轆轤の後継者育成と作品制作に取り組み、12月に開催した「学生の観光研究・活動発表会」に合わせて、広島市基町の展示スペースで轆轤作品を展示。 (漆造形/参加学生6人)	6 (参加学生数) ※一般参加者数は⑤に記載
柳井市	②柳井金魚ちょうちんプロジェクト	山口県柳井市の伝統行事「柳井金魚ちょうちん祭り」に参加し、金魚ちょうちんを使ったオリジナルの作品を制作。お祭り期間中、市内の旧醤油蔵で完成した作品を展示。 (デザイン工芸学科、立体造形/参加学生44人)	4550
呉市	③野呂山御手洗プロジェクト	呉市の豊かな自然や歴史を学び、現地でのスケッチ制作を中心に「絵画作品を通じて 呉の魅力を表現する」をテーマに作品を制作。完成した作品は呉市野呂山レストハウスの芸術村ギャラリーに展示。(油絵専攻/参加学生22人)	578
広島市 基町	④基町プロジェクト	・展示スペース M98 <join>を活用した学生の作品展示 ・地域内外との交流イベント「土曜日の先生」実施 ・モトマチ・アートウィンドウでの作品展示 ・「もとまちカフェ」の実施(広島修道大学との協働) ・基町の歴史や魅力を紹介する「基町、昔の写真展」を開催 ・グローバルキッチンプロジェクトの開催(安田女子大学との協働) (合同/参加学生89人)	685
	⑤「feel セトウチ in モトマチ」展	COC+アートプロジェクト「feel セトウチ in モトマチ」展の開催 展示スペースとして新たにアートギャラリー「Unite(ユニテ)」を整備した。 (合同/参加学生16人)	177
東広島市	⑥広島仏壇プロジェクト	地域の地場産業である広島仏壇の伝統技術を学び、自身の作品制作に活かすとともに、地域との持続可能な関係を築ける人材の育成に取り組む。 (漆造形/参加学生11人)	11 (参加学生数)
尾道市	⑦尾道プロジェクト	尾道市立大学との協働プロジェクトとして、尾道アーティストインレジデンス(AIR 尾道)に滞在するアーティストの滞在制作や空き家再生プロジェクトを学び、広島市大生と尾道市大生が協働し作品制作を行い、その成果をAIR 尾道の展示スペースで発表する。 (現代表現/参加学生19人)	123
合計			6130人

(5)アートプロジェクト5年間の実施状況

アートプロジェクトは、芸術学部が中心となって、事業協働地域の資源や観光のポテンシャルに対して、アートやデザインによる表現力によって、魅力化、顕在化をもたらすものとなることを目標とした。教育研究の一環として行い、学生が地域に入って取材、体験を進める中で、作品の制作とともに、学生自らが地域への発見や気づきを得ることが重要となる。そして、将来にわたって地域への関りを持ちながら制作を続けられるよう、その意識形成にも重きを置いて実施した。

アートプロジェクト
統一テーマ「広島ニュートラベル」
 地域別テーマ 「ニュートラディショナル」
 「ニューコミュニティ」
 「ニューストーリー」
 「ニューライフ」



アートプロジェクト 5年間の実施概要						
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	計
実施地域	1地域 (広島市)	2地域 (廿日市市、広島市)	5地域 (廿日市市、広島市、尾道市、北広島町、安芸太田町)	6地域 (廿日市市、広島市、尾道市、柳井市、北広島町、安芸太田町)	6地域 (廿日市市、広島市、尾道市、呉市、東広島市、柳井市)	8地域
実施プロジェクト数	1	7	10	10	7	延べ35
参加者数	800人	2768人	3258人	4463人	6130人	17419人
基町プロジェクト	→					芸術学部合同
宮島ものづくり産業復興プロジェクト	→					漆造形
宮島アーカイブプロジェクト	→					漆造形
宮島双六プロジェクト	→					油絵専攻
宮島油絵プロジェクト	→					油絵専攻
宮島染織プロジェクト	→					染織造形
観光船と水辺のデザインプロジェクト	→					立体造形
観光客に伝えたい新しい広島	→					視覚造形
広島ピースプロジェクト	→					映像メディア造形
筏津プロジェクト	→					彫刻専攻
たたらプロジェクト	→					金属造形
尾道プロジェクト	→					現代表現
日本画風景プロジェクト	→					日本画専攻
西国街道マンホールデザインプロジェクト	→					視覚造形
宮島金工プロジェクト	→					金属造形
安芸太田染織プロジェクト	→					染織造形
柳井金魚ちょうちんプロジェクト	→					立体造形
野呂山御手洗プロジェクト	→					油絵専攻
広島仏壇プロジェクト	→					漆造形
「feel セトウチ in モトマチ 2019」展	→					芸術学部合同

■アートプロジェクトの各年度のテーマと概要 (H28年度～R元年度) <1>

プロジェクト	基町プロジェクト 【広島修道大学、安田女子大学との協働事業】
地域	広島市 基町
実施年度 (参加学生数)	H27(7人)、H28(11人)、H29(8人)、H30(8人)、R元(8人)
指導教員	准教授 中村圭(代表)、非常勤特任教員 増田純、片島蘭、新澤望、河本真一、 非常勤助教 鹿田義彦
実施内容	<p>「基町プロジェクト」は、平成26年度に広島市立大学と中区役所が連携し、若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、まちの魅力づくりや、広島市中区基町住宅地区の活性化を目的とした取り組みとして平成27年度から本格的に始動し、広島市立大学COC+事業としても取り組んでいる。</p> <p>地域拠点の活動拠点である「M98」をはじめ、食文化交流スペースの「M98(eat)」や創作スペースの「M98(make)」、展示スペースの「M98(join)」などを空き店舗にリニューアルにより整備し、地域内外との交流を図る多数のプログラムを実施してきた。</p> <p>特に、基町プロジェクトで取り組む多数のプログラムの中で、COC+事業では、地域社会と連動した学生の「学びの場」作りに取り組み、広島修道大学との「もとまちカフェ」や安田女子大学との「グローバルキッチンプロジェクト」など、COC+参加大学との協働プロジェクトを実施してきた。</p> <p>広島修道大学との協働による「もとまちカフェ」では、他大学の学生同士が、本学や広島修道大学、「M98」で定期的にミーティングを行いながら、アイデアを出し合い、基町住宅地区内外の交流活性化に取り組んでおり、平成28年度から令和元年度までに、地域の人が集まる基町住宅地区のショッピングセンター内で、学生手作りのケーキやハーブティを提供するカフェイベントやかき氷作り体験、ショッピングセンターのショーウィンドウを使ったクリスマスデコレーション、出張もとまちカフェ in 砂持加勢まつりなどを実施し、イベントを通じて地域の子どもから高齢者まで多くの方々と交流してきた。</p> <p>また、平成28年度からは、安田女子大学との協働による「グローバルキッチン」を実施し、平成28年度は1回、平成29年度2回、平成30年度1回、令和元年度1回と、安田女子大学管理栄養学科の渡邊准教授と学生が、地域の高齢者へ向けた健康料理教室「基町クッキング」を実施した。健康をテーマに減塩料理や酒粕を使った料理など、専門的な技術を学ぶ学生達の手際の良さや、若さに魅了されながら地域の方々が楽しみ、人気の高いイベントとなった。</p> <p>令和元年度には基町の空き店舗をアートスペース「Unité」(ユニテ)として新たに整備し、COC+でこれまで取り組んできたプロジェクトの作品を展示した。ここでは、創造的な活動をする若いクリエイターに作品を販売する機会を提供するスペースとして、令和元年9月以降活動を行った。</p>




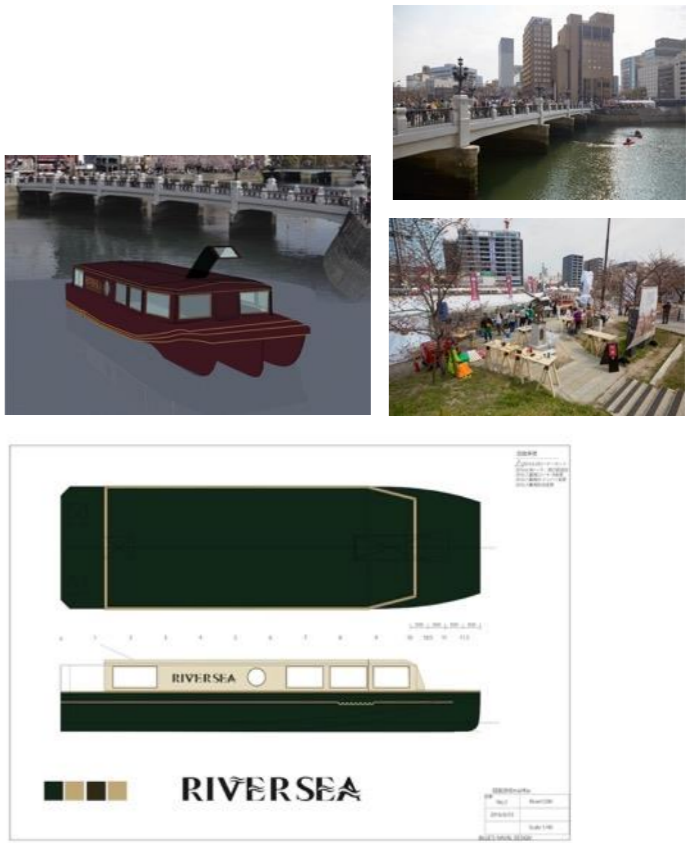
■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈2〉

プロジェクト	宮島ものづくり産業復興プロジェクト	宮島アーカイブプロジェクト
地域	廿日市市 宮島	廿日市市 宮島
実施年度 (参加学生数)	H28(6人)、H29(6人)、H30(4人)、R元(6人)	H28(2人※教員数)
指導教員	芸術学部漆造形 教授 大塚智嗣(代表)、藤本悟(宮島轆轤 伝統工芸師)※外部講師	芸術学部漆造形 教授 大塚智嗣
実施内容	<p>平成28年度から廿日市市や宮島細工共同組合と協働し、宮島の伝統工芸である「宮島轆轤」の後継者育成と新しい轆轤作品作りに取り組んだ。</p> <p>宮島伝統産業会館にある轆轤設備を活用し、伝統工芸士の藤本悟氏から指導を受けながら、地域の風土や環境の中で轆轤技術の習得を行っている。平成29年度には、広島経済大学のセミナーハウス「成風館」で、国内外の轆轤工芸に関するシンポジウム「魅了する轆轤のかたち展 - 知られざる技と心 -」を開催。平成29年度、平成30年度にはプロジェクトで制作した轆轤作品をサテライトハウス宮島で展示し、地域内外へ向けて宮島轆轤の魅力を紹介した。</p> 	<p>【宮島ものづくり産業復興プロジェクト関連事業】</p> <p>宮島の伝統産業に関わる職人の技術や歴史をテーマにしたアーカイブ映像制作と写真記録を実施。</p> <p>宮島轆轤の伝統工芸士藤本悟氏への取材を通じて、学生が宮島の伝統産業に関心を持ってもらう契機となるよう、伝統産業の歴史や藤本氏の技術指導を映像として記録。動画は、新入生に向けての学習用として活用し、「宮島ものづくり産業復興プロジェクト」に参加する学生を増やした。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈3〉

プロジェクト	宮島双六プロジェクト	宮島油絵プロジェクト
地域	廿日市市 宮島	廿日市市 宮島
実施年度 (参加学生数)	H28(8人)、H29(8人)	H28(22人)
指導教員	芸術学部油絵専攻 准教授 釣谷幸輝	芸術学部油絵専攻 准教授 志水児玉
実施内容	<p>宮島の歴史や伝統文化、地域特性をテーマに、日本の伝統的な遊びの一つである双六と浮世絵などに見られる日本独自の技術である板目木版画技法を用いて、国内外から宮島を訪れる観光客に向けて、新しいデザインによる「宮島双六観光マップ」を制作した。</p> <p>平成28年度は宮島での現地取材、双六様式の調査研究、技法の習得を行い、平成29年度にはプロジェクトの成果発表として、20点の原版を中心とする作品をサテライトハウス宮島で展示するとともに、「双六観光マップ」の英語バージョンを制作し、外国人観光客も使うことのできる宮島双六観光マップを展示期間中に宮島棧橋前で配布し、外国人観光客から好評を得た。</p> 	<p>平成28年10月4日から21日まで学部2年生を中心とした宮島の現地調査と作品制作を行った。元広島県立歴史民俗資料館学芸課長から宮島の歴史や文化に関するレクチャーを受け、船による宮島周遊や現地でのスケッチ、写真撮影を行い、現地調査以降は大学アトリエで宮島をテーマとした絵画制作を行った。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈4〉

プロジェクト	宮島染織プロジェクト	観光船と水辺のデザインプロジェクト
地域	廿日市市宮島	広島市
実施年度 (参加学生数)	H28(18人)、H29(18人)	H28(5人)
指導教員	芸術学部染織造形 准教授 野田睦美(代表)、教授 倉内啓	芸術学部立体造形 講師 藤江竜太郎
実施内容	<p>宮島の広島市立大学COC+宮島教育研究施設を活用し、世界遺産登録20周年を記念する空間演出として、染織造形作品を展示した。</p> <p>宮島の貴重な古民家であるサテライトハウス宮島は、宮島門前町東町に建てられ、通り側から室内空間が1列型に続き、細長い土間と坪庭を有した間口約6m奥行き約20mの町家である。これらの特長を生かし、「宮島に平和の明かりを灯そう」をテーマとした染織造形を制作。素材は繊維を使用し、ピー玉絞りなどの染織技術を生かした作品を室内外に設置し、灯籠流しをイメージした演出を行うとともに、オモテに位置する仏間には、日本の神を象った造形物を展示し、祈りの場を提供した。有機的な大小様々な灯籠が、昼は自然光によって温かく輝き、夜はLEDによって艶やかに発色し、宮島を幻想的に彩った。サテライトハウス宮島での展示期間は宮島の萬燈会(9月8日～10日)と同時期に開催した。</p>  <p>中国新聞 2017年(平成29年)9月8日(金曜日)『広島都市圏』</p> <p>宮島の町家 くつろぎアート</p> <p>広島市立大が染織造形展</p> <p>世界遺産の島・宮島で水色や青、緑に染め(廿日市市)の町家を「た薄い生地をテントの」</p> <p>展示品の仕上がりを確認する学生</p> <p>広島市立大学COC+染織造形アートプロジェクト 2017年9月7日(木)～11日(月) 広島市立大学COC+宮島教育研究施設 サテライトハウス宮島</p>	<p>広島市内中心部の水辺の魅力アピールする観光振興プロジェクトとして、本学芸術学部の教員、学生が中心となり、観光船へのグラフィティデザインの提案を行った。河岸での活性化イベントを実施。平成28年5月から広島駅周辺の猿猴橋、京橋周辺をフィールドワークし、船の色味やデザインを検討後、デザイン案を複数制作(船の新造には至らなかった)。また、平成29年3月25日に広島市内中心部の猿猴橋護岸で開催する「えんこうさん祭」に参加し、地域活性のイベントを実施した。</p>  <p>RIVERSEA</p>

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈5〉

プロジェクト	観光客に伝えたい新しい広島	広島ピースプロジェクト
地域	広島市	広島市
実施年度 (参加学生数)	H29 (19人)	H29 (5人)、H30(6人)
指導教員	芸術学部視覚造形 准教授 中村圭(代表)、教授 及川久男、非常勤助教 鹿田義彦	芸術学部映像メディア造形 教授 笠原浩、非常勤助教 長野櫻子
実施内容	<p>「広島の新しい観光」という視点で国内外から広島へ観光に来ようと考えている人々へ、「広島」というイメージを視覚的・魅力的に伝えるポスターのデザイン制作を行い、完成した作品を基町プロジェクトが運営する展示スペース「モトマチ・アート・ウィンドウ」で展示した。</p> <p>学生には、事前に「観光客に伝えたい新しい広島」というテーマを与え、各自がデジタル一眼レフカメラを使って、宮島などの観光地を撮影・記録・調査し、その写真を元に広島市外(海外を含む)から広島へ、観光に来ようと考えている人々へ伝えたい「新しい広島」をビジュアルイメージで表現した。</p> 	<p>NHK 広島放送局と長崎放送局が平成 19 年度から毎年放送している特集番組「ヒバクシャからの手紙」において、1945 年 8 月の広島の記憶を辿りアニメーションによって映像化するプロジェクトに、映像メディア造形の学生が参加。学生が主体となり、戦争によって被爆した方やその家族、大切な人を亡くした方々へ取材し、その取材した内容や体験を元に、夏の放送へ向けたアニメーションによる記録映像を制作した。広島という土地でアニメーションを学ぶ学生たちが「ヒバクシャからの手紙」に新たな生命を吹き込み、昭和 20 年の記憶を次世代へと語り継ぐことを目的とした。作品は、ロスコープ技法や黒画用紙に色鉛筆で映像作品等を制作している。平成 29 年度は制作物の一部を NHK 広島放送局 1F ロビーでパネル展示した。</p>  <p>広島市立大学の学生が 河野さんの体験をアニメーションにすることに</p>

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要 (H28年度～R元年度) <6>

プロジェクト	筏津プロジェクト	たたらプロジェクト
地域	北広島町大朝	安芸太田町加計
実施年度 (参加学生数)	H29 (12人)、H30 (6人)	H29(8人)
指導教員	<p>芸術学部彫刻専攻 教授 伊東敏光(代表)、非常勤特任教員 土井満治、助教 七瀬綾乃、講師 田中圭介、藤江竜太郎、教授 Charles Worthen、吉田幸弘</p>	<p>芸術学部金属造形 教授 南昌伸(代表)、教授 永見文人、非常勤助教 平岡勇樹</p>
実施内容	<p>北広島町大朝の筏津芸術村(旧筏津小学校)を中心に、芸術学部美術学科彫刻専攻とデザイン工芸学科立体造形の学生合同による現地滞在型作品制作「筏津プロジェクト」を実施した。平成28年度は、北広島町の風土や歴史、伝統、文化等のリサーチを行い、平成29年度に、移住促進に活用しているお試し住宅を宿泊場所として、学生は自炊をしながら、地域の材料等を活用し作品を制作した。平成29年8月には、完成した作品を筏津芸術村等で開催の「年々歳歳筏津曼荼羅芸術祭」で展示した。また、地元の木材を活用し、彫刻専攻の教員や学生が地域の伝統文化である神楽をモチーフにしたトーテムポール作品を筏津芸術村の入り口に設置し、地域のシンボルとして北広島町から表彰を受けるなど、地域住民からも好評を得た。</p> 	<p>芸術学部デザイン工芸学科金属造形の学生が、安芸太田町を中心とした、たたら製鉄文化を学び、鉄をテーマにした作品制作と展示を行った。</p> <p>学生は現地学習として、三段峡の東にそびえるなだらかな草原の麗峰、深入山付近のたたら跡の調査や温井ダムの視察、川・森・文化・交流センター(歴史民俗資料館)、安芸太田町鍛冶屋館の視察のほか、鍛冶屋館を会場に、本学芸術学部卒業生で、野鍛冶の技術を継承しながら、独自の鍛冶作品も制作している秋田さんによる鍛冶講習を受けた。その後、大学工房で安芸太田をテーマとする鉄を素材とした作品を制作し、11月には地域のお祭り時期に合わせて安芸太田町鍛冶屋館で完成した作品を展示した。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈7〉

プロジェクト	尾道プロジェクト 【尾道市立大学との協働事業】	尾道風景画プロジェクト
地域	尾道市	尾道市
実施年度 (参加学生数)	H29(14人)、H30(13人)、R元(19人)	H29(20人)、H30(20人)
指導教員	芸術学部現代表現 講師 古堅太郎、教授 鰐澤達夫、非常勤助教 宮内彩帆、花岡美優、入江早耶	芸術学部日本画専攻 准教授 前田力(代表)、助教 古賀くらら
実施内容	<p>尾道市立大学と協働し、尾道で活動する NPO 法人や企業、グループ等を視察し、地域の魅力について「知る」ことから始め、尾道地域の特徴である山手地区の空き家問題について、尾道市立大学の小野准教授からレクチャーを受け、実際に空き家を巡りながら尾道の現状についての調査を行う。また、尾道の空き家を展示スペースとして整備し、学生は実際の体験を通じて得られた知識、経験をもとに自身の作品制作に取り組む。プロジェクトの成果発表として、尾道の光明寺会館をお借りし、学生企画による展覧会を3年間継続して行った。</p> 	<p>平成 29 年度と平成 30 年度の 2 年間、尾道市周辺において、味わいのある街並みや港の風景を取材し、現地でスケッチ制作を行った。学生は「風景制作・自由制作」の題材とした作品制作の基となるスケッチを行い、アトリエに戻り日本画制作を行った。完成した作品は広島市立大学オープンキャンパス等で展示した。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈8〉

プロジェクト	西国街道マンホールデザインプロジェクト	宮島金工プロジェクト
地域	広島市	廿日市市 宮島
実施年度 (参加学生数)	H30(27人)	H30(11人)
指導教員	芸術学部視覚造形 教授 及川久男(代表)、准教授 中村圭	芸術学部金属造形 教授 南昌伸、教授 永見文人、非常勤助教 平岡勇樹
実施内容	<p>広島市下水道局からの依頼による広島市の旧西国街道に設置するマンホールのデザインを制作した。かつて城下町の日抜き通りであった西国街道の調査・聞き取りを行い、西国街道をモチーフにした観光振興に役立つ公共物としてマンホール蓋のデザインを提案。2、3名のグループ単位でプロジェクトを進め、広島市役所で下水道局職員へプレゼンし、最終的に一つのプランに絞られた。平成30年11月以降、さらにブラッシュアップしたデザイン蓋は、令和元年4月に試作品を制作し、秋頃から随時設置された。</p> 	<p>宮島の歴史を学ぶとともに、島内の既存の観光グッズ、土産品等を調査し、金属素材を主とした新しいオリジナルグッズ等の提案を行った。平成30年12月には「大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会」に参加し、参加学生がプロジェクトの研究成果を発表。また、同時期にサテライトハウス宮島で展覧会「これも!? 宮島展」を開催し地域内外へ作品を紹介した。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要 (H28年度～R元年度) <9>

プロジェクト	安芸太田染織プロジェクト	柳井金魚ちょうちんプロジェクト
地域	安芸太田町加計	柳井市
実施年度 (参加学生数)	H30(7人)	H30(44人)、R元(44人)
指導教員	芸術学部染織造形 准教授 野田睦美(代表)、教授 倉内啓、非常勤助教 梅田彩香	芸術学部立体造形 講師 藤江竜太郎
実施内容	<p>安芸太田町の歴史や自然にインスピレーションを受けた染織造形作品を制作。完成した作品を安芸太田町のアートギャラリーmm projectで展示した(展覧会:「織維の森」展)。 織る、染める、縫うという基本的な技法を用いて、新しい造形力、表現力を見つける実験的な展示となった。また、10月に地域交流イベントとして、地元の子供達を対象にした野菜染めワークショップを開催。</p> 	<p>山口県柳井市で毎年夏に開催される伝統行事「柳井金魚ちょうちん祭り」のPR活動として、柳井市と協働し、祭りの魅力化や地域の活性化へと繋がるオリジナル金魚ちょうちん作品を制作。完成した作品は柳井市内の大正時代末期に建築された旧醤油蔵で祭りの点灯式に合わせて展示した。 参加した学生はデザイン工芸学科の1年生を中心に、5月には柳井市で金魚ちょうちんの工房を見学、白壁などの柳井独特の地域文化を取材し写真に記録。また、宿泊場所の山口県周防大島町の豊かな自然を体験し、山口地域の魅力を探しながら、オリジナルの金魚ちょうちん制作へ向けたアイデア出しを行った。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要（H28年度～R元年度）〈10〉

プロジェクト	野呂山御手洗プロジェクト	広島仏壇プロジェクト
地域	呉市	東広島市
実施年度 (参加学生数)	R元(22人)	R元(11人)
指導教員	芸術学部油絵専攻 助教 向川貴晃(代表)、教授 森永昌司	芸術学部漆造形 講師 青木伸介
実施内容	<p>呉市野呂山やとびしま海道の歴史や文化を学び、現地でのスケッチを通じた絵画作品を制作し、呉市の魅力を表現した。現地でのスケッチ制作では、1日目に呉市大崎下島の重要な建造物群保存地区である御手洗を中心とした歴史的な町並みや瀬戸内海の景色を制作。2日目には呉市の瀬戸内海国立公園野呂山周辺の自然豊かな景色を中心に制作した。作品は野呂山レストハウスの芸術村ギャラリーで展示した。</p> 	<p>伝統的地場産業である広島仏壇の歴史的背景や様式などを、伝統工芸士の特色ある漆立塗や箔押の技術を通して実践的に学んだ。</p> <p>仏壇産業から見てくる生活の変化や、製造工場の海外依存による職人の減少など、地域と産業が抱える課題を認識し、研究分野の特色や、専門性を活かす教育と実践の場を地域と連携しながら創出する。今後の継続的な取り組みを視野に、学生各々の内なる可能性を感化させ、持続可能な地域との関係を築ける人材の育成を目的とした。</p> 

■「アートプロジェクト」の各年度のテーマと概要 (H28年度～R元年度) <11>

プロジェクト	「Feel セトウチ in モトマチ 2019」展
地域	広島市 基町
実施年度 (参加学生数)	R元(16人)
担当教員	教授 南昌伸、教授 大塚智嗣、准教授 中村圭、准教授 前田力、准教授 野田睦美、講師 藤江竜太郎、講師 古堅太郎、講師 青木伸介、助教 向川貴晃
実施内容	<p>【COC+アートプロジェクトの集大成となる展覧会を開催】</p> <p>平成28年度から瀬戸内海をはじめとする豊かな自然環境に加え、宮島や原爆ドームといった2つの世界遺産を背景としながら、芸術学部を中心とした学生達が「観光」をキーワードに、COC+参加大学や地域と協働しながらアートプロジェクトに取り組み、これまで広島・山口の7地域でプロジェクトを実施してきた。</p> <p>本展覧会では、平成28年度から令和元年度までの期間に、アートプロジェクトで制作した作品の中で、瀬戸内地域で制作した7プロジェクトの作品を展示し、瀬戸内の魅力やこれまでのプロジェクト活動を広く紹介した。会場は、本学が広島市中区と協働で取り組む「基町プロジェクト」において、令和元年度に基町地区の空き店舗をリノベーションし、創造的な活動に取り組む若い人たちに販売の実験や体験の機会を提供するための空間として整備した「Unitè(ユニテ)」をはじめ、展示スペース「M98<join>」、交流スペース「M98<eat>」の3つのスペースで行った。併せて、広島市の都心部である「基町」が若い人たちの芸術活動の場に生まれ変わっていることを地域内外へ発信することを目的として開催した。</p> <p>(1) 日時: 令和元年11月30日(土)～12月15日(日) 11:00～16:00 (土日のみ) (2) 場所: 基町プロジェクト活動拠点 (Unitè、M98<join>、M98<eat>)</p>

